

Presented by nme

んめ

第7話

心をノゾく山の守り猫

他
ゲ
ゲ
ゲ

GEIJI

GENESYS INC.

©NME

GENESYS





俺だって祭りの片付けが残ってたんだよ

それに今は
入山禁止の看板もあるし
大丈夫だろ……



…びつくりしたあ

おめえ……それで
霊介が供魔山に行く言うて
止めんかったんか!?



あのさ……
供魔山はあんな事故があったから
近寄せたたくないのはわかる
……ただそれをまた幽霊だなんだのと

霊介の教育にもよくないし
そういう妄想はいい加減
やめてもらいたいんだけど



供魔山における魑魅魍魎どもに
引き寄せられたのかも
しれん

いざという時に備えて
自衛できる術は与えとるが
今回ばかりは霊介を助けに
行かにやおえんで



ふん……
霊介にも同じことを
言っとったんじやろ

霊なんておらん
そねーなこと言うど頭が
変じゃ思われる



父親から霊の存在を
執拗に否定され続けとったんか…

どうりで霊介が幼少期の記憶を
ほとんど覚えとらんかった
わけじゃわ

あのころの霊介の遊び相手
っていやあ
ドラ猫か子供の霊か

「霊なんて存在するわけねえ」
おめえがそう思うんは
勝手じゃけどな

昔の思い出まで否定
されるんは
霊介が不憫じゃろーが



立派な神様でも
祀られてるのかな？

ほとんど朽ちちやってるけど
でっかい鳥居だなあ……



？

オマエが来るのを
ずううっと待って
いたんだぞ

ここまで来て
帰ろうとすんなっ



崇られても
嫌だし……帰ろうかな

コラ人間ッ！



タヌキ……？

脅威になりそう
には見えないけど
でも確かに強い気は
感じる感じる♪

なんでじゃッ！



あたいは傀割様の
使い魔にして供魔山の番人

ちょっと…あたいのどこを
どう見たらタヌキに
見えるってえ？

名は郷狸^{サトリ}ってんだ

ガ
レキ



なんだかややこしいのが
出てきたぞ……
番人ってなんだ……？
それに…ククリサマ……？

この町を覆う
瘴気は傀割様が発している
もの……

この町に入ってきた
ひとりの人間が原因でね
傀割様はその人間を異物と
して見ているんだけどね



そう狼狽
するんじゃないよ

傀割様は
この供魔山を
統べる巫女であり
神なるお方さ

アンタが
その人間ってワケ

キョーッ

だから
アンタのその強力な気が
傀割様を警戒させてんの

普通の人間と
生気の質が違うから
あたいらには毒に
なるんだってさ

普通の人間なら干物になるまで
搾り取ってあげるんだけど

残念ながら
止められてるからね

えっ
お…俺…？

皮を剥いで
傀割様に献上かな♪

カッ
カッ
カッ

ヤバイ……
これは話が通じない
タイプだ

早くこのタヌキから
逃げないと……

……だからさ

タヌキじゃないッ
つってんだろオ!!

あ…これ
ヤバイかも……

マジで死……

なんだ…?

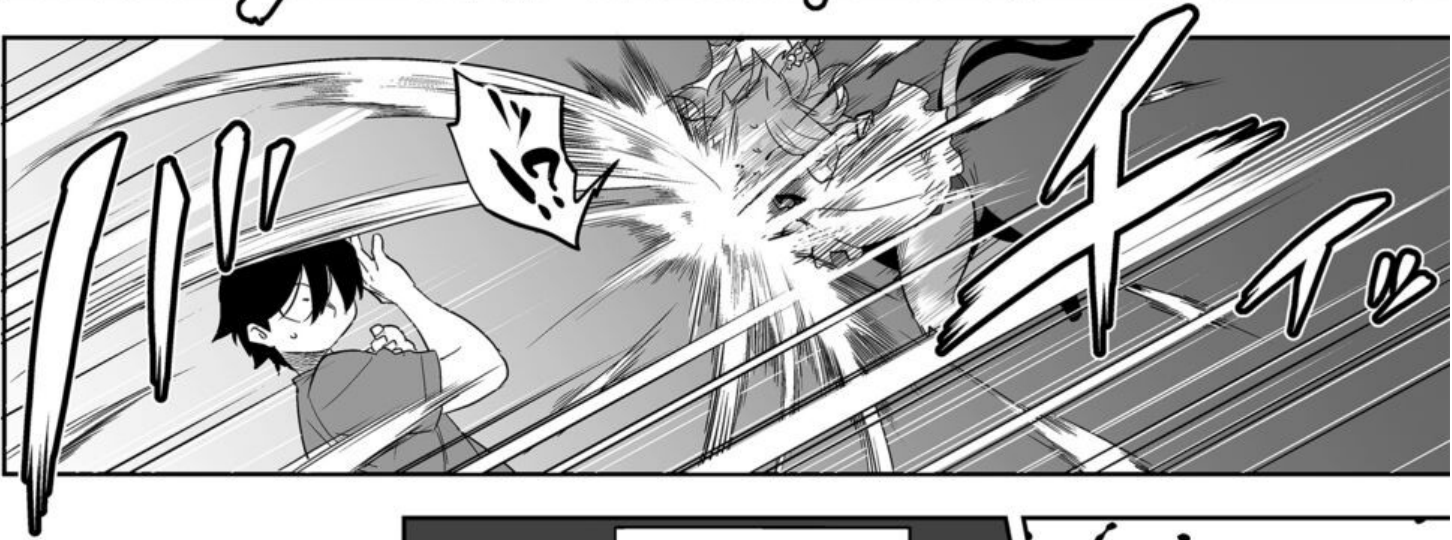
今オマエ…
何をした?

…あれ?

まあいい……
あたいには傀儡様から
授かった力がある

この「読心眼」が
ある限り
あたいは無敵だ

さっきは感情的になって
心を読み損なっただけ……



——ツまた弾かれた

この人間……
何か巨大な存在に
護られているって
いうのか？

それも
こいつの意識でやった
ことじゃない





くそっ
なんだよこの札：
力が…入らない

人間の分際で
あたいをこんな目に
遭わせやがって……

君のご主人様：
傀割様の居場所を
教えてくれたら
解いてあげるよ

じーちゃんに渡された
お札…持ち歩いてて
よかった

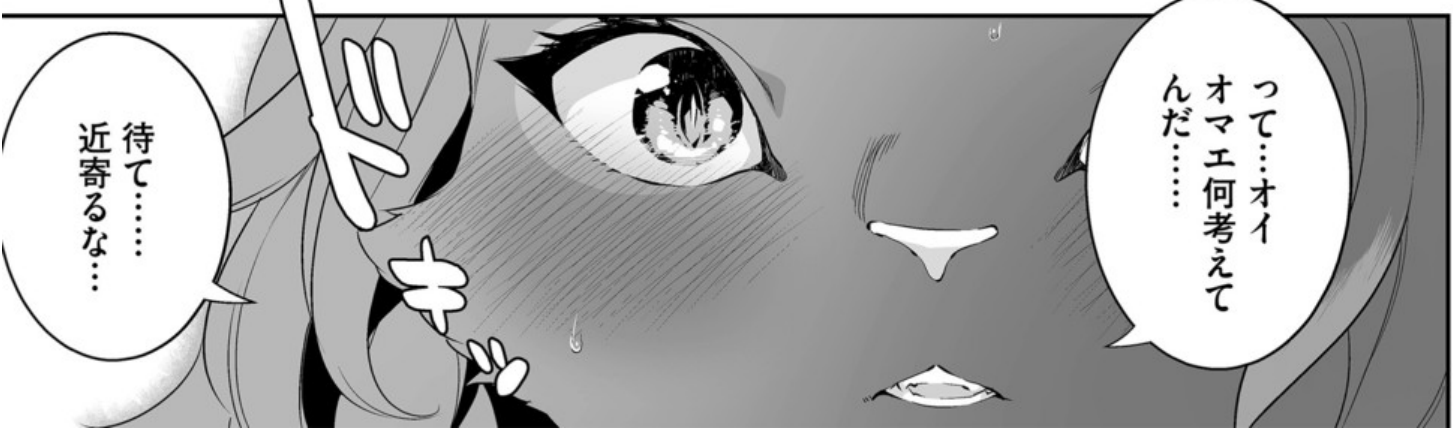


はんっ…お断りだね

そもそも主を裏切る
使い魔がどこにいる
ってんだよ

そっか……
どうしてもダメ
かあ……

当たり前だっ



って…オイ
オマエ何考えて
んだ……

待て……
近寄るな……





懐かしいなあ……
昔も近所の野良猫のお尻を
こうやってよく叩いてたっけ

こ……こんなことで……
あたいが傀儡様の居場所を
吐くと思ってるのか……?

ゼー……
ゼー……

こ……

たん

たん

たん

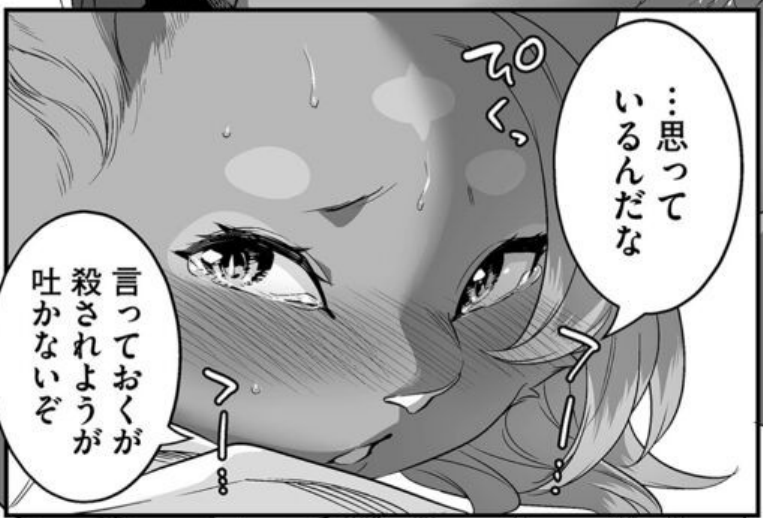
たん

たん



そんな物騒なことは
しないって……

俺は君に
気持ちよくなつて
もらいたいんだよ



……思っ
てるんだな

言っておくが
殺されようが
吐かないぞ



うん
ここの準備は
できたみたいだね

めち

ひく

てく

てく

ん……

んぐらッ...

アッ...

あっ...んはあッ

この山に迷い込んだ
瀕死のあたいを
使い魔として転生
させてくれた傀剗様

あの瞬間から
あたいは傀剗様に
忠誠を誓ったんだ



だからこんな人間の
こんなイチモツごときに
負けたりは...でもッ

あたいの膣内を
往復するたびに...

コイツの強烈な生気が
体じゅうを駆け巡って...

みちちッ
アッ...

アッ...

アッ...

アッ...

アッ...

アッ...

アッ...

アッ...

アッ...



そ…そんな裏切り…
あたいには……

あたい…
あたいには…

はあ…く…
傀刳様…
う…



あのさ…こんなこととして
今更かもしれないけど

本当に俺は
君も…その傀刳様も
傷つけようだなんて
思っただけで…

その…

この人間…
嘘は…ついてない

むしろあたいや
瘡気で苦しんでいる
怪異たちを



救おうと必死なんだ

…わかった
傀刳様の所まで
案内するよ

約束する…
だからさ



この人間の生気が
毒だと言った意味が
わかった気がする

傀割様が……

体じゅうの邪気が
浄化されていき
代わりに幸福感で
満たされる

どんなに赦ゆるされないことでも
すべてが赦されるような
そんな感覚になってしまう

あたいには
それが恐ろしい

やっぱり君の顔
もっと見たいかも

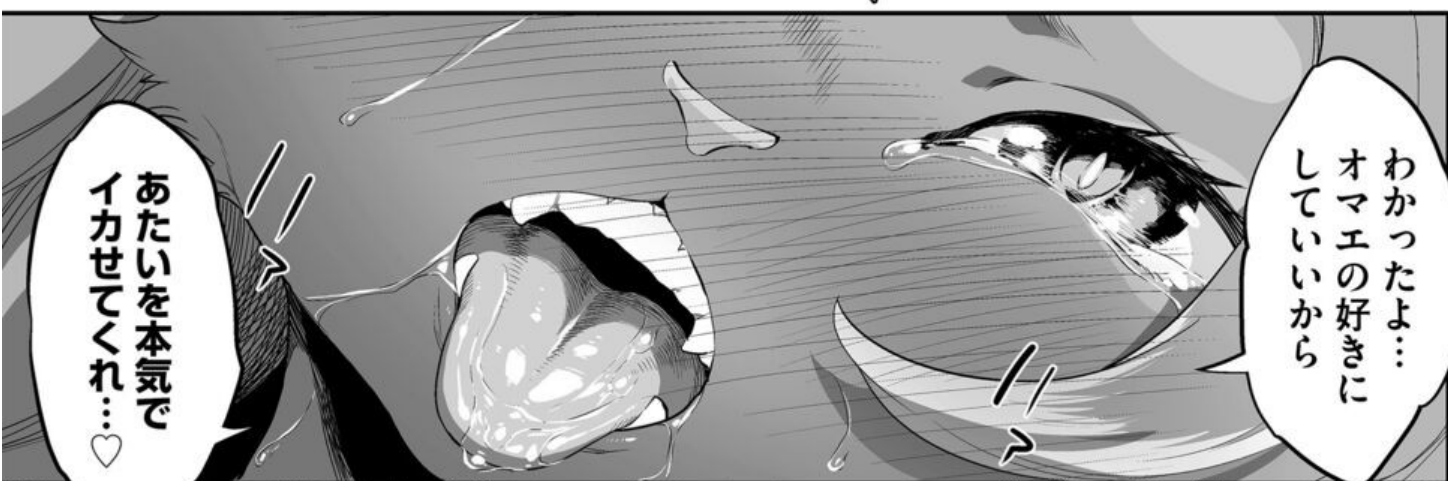
いめん…



コイツのこの声で…
もう…何回も
イってしまってる…

そんな愚直で
俗な想いを…

何度も
ぶつけるな…バカッ



わかったよ…
オマエの好きに
していいから

あたいを本気で
イかせてくれ…♡



このまま腰を
打ち付けながら
腔内に出したいけど

今はまだ
この子を昇天させる
わけには…!!

ズッ
ズッ
ズッ

ガクッ

ズッ
ズッ
ズッ

ズッ
ズッ
ズッ

ぬる

ズッ

ズッ

ズッ
ズッ
ズッ



フツッ

フツッ

フツッ

おほおほ

フツッ

フツッ

フツッ

フツッ

フツッ

おほおほ

フツッ

フツッ

フツッ

フツッ



ここには傀剗様によって
殺された人間たちの
靈魂が残留している

しかしそれらは
傀剗様の本意ではない…
だから今も尚^{なほ}あの方は
苦しんでいるんだ



うわやバツ！
俺ちよつと
気を失ってたよね…

ドキッ

でも
この人間になら
あるいは—





まぐわい中に聞こえてきた
 アンタの気持ち
 正直悪い気しなかったからさ
 この先もあたいが守って…



感謝しなよ
 アンタが気を失ってる間
 寄ってきた悪霊どもから
 守ってやったんだ



なーんだ

でも俺の
 気持ちって…?



ありがとう
 本当助かるよ

………



さて……
 約束だからね
 案内するよ
 傀剗様の所まで



思ってたより
 イロオトコだった
 ってワケねー



女ガリッ



To Be Continued...

ГЕИМН